Rihoのドイツ便り

No.55

地元で直売 顔の見える酪農家

牛乳の生産量の多いドイツ。2009年の生産量は2860万トンで、前年より約3%増となった。牛乳はチーズやヨーグルト、バターに加工され、生活の隅々にまで浸透している。生産量は、日本のお米のように各農家ごとに決められており、権利が売買される。品種改良の結果、現在はよい牛だと年間9000キロの牛乳を搾り出している。

家族経営が多い畜産農家だが、「ヘメ牛乳」は新しいビジネスモデルを展開している農場である。1589年からの歴史を誇り、現在は乳牛を300頭飼育。近隣の住民をはじめ学校や幼稚園と契約し、牛乳や乳製品を配達している。直売所ではヨーグルトやチーズ、バター、生クリームをはじめ、クッキーやケーキなど40種類以上を扱い、カフェも併設。裏に広がる牧草地では、生まれたばかりの仔牛や搾乳のようすが見学できる。

宅配の車を12台保有し、全従業員は36人という、ドイツでも例外的な農業経営を実践。とうもろこしや牧草など飼料の9割は自分で生産しているから、消費者も安心。人々の信頼を得ることを第一にし、地産地消を実践している。落ち着いた雰囲気のカフェで味わうカフェオレやケーキは絶品。牛乳も生クリームも自家製だし、夏場は外にも座れるとあって口コミで人気が高まっている。

それにしても牛の生活というのもなかなか大変ですね。機会があって酪農家や畜産農家を支援する組織を訪ねたが、牛は一日30ℓの乳を出さなければならない。発情期がきたら人工授精され、400日に一度、子を産む。種牛である雄は檻に閉じ込められ、週に二回精液を供給する。カタログには種牛の特徴が数値化され、商売道具となる子どもの写真が大きく載せられている。人気とともに精液の値段は跳ね上がり、人気がなくなると肉にされる。この種牛の子どもは世界に何千頭いるのだろうか。

参照：ヘメ牛乳（Hemme Milch） http://hemme-milch.de/wedemark/ueber-uns.html

田口理穂 ごみかんドイツ特派員

ドイツで子育て♪

2007年10月に男の子が生まれ、ドイツで子育てしています。

11月11日はちょうちん祭りの日。貧しい人に施しをしたというマーティン聖人の言い伝えにもとづき、暗くなってからちょうちんを持って近所を練り歩きます。明の保育園でも事前に親子でちょうちん作りをし、夕方5時半に親子90組が集合しました。道路の真ん中を歩くので、警察官が馬に乗って警備に。あいにくの雨で濡れながらも、歌いながら10分ほど歩き、園に戻りました。園ではカカオやホットワイン、スープやパンが用意され、暖をとりながら交流しました。

11月に入り、いよいよ暗くて寒いドイツの冬。だからこそ、こうした行事を通じて冬を迎える準備をするのですね。子どもたちは喜んで、暗い中灯りを手に歩いていました。